



社会貢献活動

富士通グループは、
豊かで夢のある未来の実現に向けて、
多様な社会貢献活動を展開しています。

社会貢献活動の考え方

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICTを活用してお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

社会貢献活動においては、「ICTの裾野の拡大」「挑戦の支援」「地域との共生」「環境」の4つを柱に、多種多様なステークホルダーと連携し、グループ全社員が積極的に参加して活動を展開しています。

なお、活動の活性化とベストプラクティスの共有を目的に、活動の実施記録を社内システム上で蓄積・公開し、そのデータベースを活用した社内表彰を実施しています。



社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティをより良いものとするため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。

このような取り組みの結果、2015年度に全世界の社員が実施したボランティア活動の合計時間^(注)は、16.9万時間でした。

(注) ボランティア活動の合計時間：

「総活動時間=Σ参加者×活動時間」で算定。富士通グループが主催するイベントの場合は、参加者に社員の家族やステークホルダーを含む。また、就業時間内外でのボランティア活動を含む。

ボランティア活動支援制度

社員のボランティア活動を支援するため、以下の制度を設けています。

- ・ 青年海外協力隊／シニア海外ボランティア参加のための休職制度：最高3年間
- ・ 積立休暇：年5日支給とし、最高20日まで積立可（ボランティアを含む特定の目的に利用）

学術・教育の振興、文化・協賛活動

富士通 JAIMS の運営



富士通 JAIMS は、富士通の提唱により非営利な教育活動を目的に設立された財団法人で、大学院レベルの教育を提供しています。その母体である「JAIMS」は、1972 年に日米の架け橋となる人材の育成を目的として、東洋と西洋の文化が融合するハワイに設立されました。以降、55 カ国から約 23,000 名の卒業生を輩出したほか、2006 年には外務大臣表彰を受賞するなど、JAIMS の活動は国際交流を促進させ、対外的にも高く評価されてきました。

2012 年 7 月には、近年グローバルビジネスで特に重要な役割を果たしているアジアとの連携を強化するために「一般財団法人富士通 JAIMS (以降、富士通 JAIMS)」を日本に設立し、2013 年 4 月からは富士通 JAIMS を本部として新たな形で活動をスタートしました。パーチャルなマルチキャンパス・ネットワークというユニークな構想の下、ハワイキャンパス (JAIMS)、アジアのパートナーとともに柔軟かつ多様な知の連携を推進することで、「アジア・パシフィック地域の人材開発と知の共創による新たなコミュニティ開発に貢献する」というミッションを実現していきます。

富士通 JAIMS が提供する主なプログラムは、知識創造理論の世界的権威である野中郁次郎氏 (一橋大学名誉教授) のビジョンに基づき開発した国際マネジメントプログラム「Global Leaders for Innovation and Knowledge : GLIK」です。「地域に密着しながらグローバルな視点で、より善い未来を自らの手で創るイノベーションリーダーの育成」を目的に、短期間 (約 3.5 カ月) にアジア・パシフィック地域 (日本・米国 [ハワイ]・シンガポール・タイ) で学び、変化する状況の中で本質を洞察しながら判断し実行する力とリーダーシップを鍛えます。東アジア・東南アジアを中心とする各国からの優秀な参加者との切磋琢磨、各分野で実績をもつ先鋭の講師陣や、各国での有識者との対話などの実践を通じ、グローバルに通じる感性・知性を磨けるだけでなく、グローバルビジネスのフロントに立つリーダーに必要な視野と突破力を体得することができます。

富士通は、運営資金の拠出に加えて活動を支援する組織を社内を設置し、富士通 JAIMS の活動を全面的にバックアップするだけでなく、富士通の実践知・技術・ノウハウを活動に織り込むことで、富士通 JAIMS と一体となって、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献活動を推進しています。



GLIK の参加者たち

・ 一般財団法人富士通 JAIMS

www.jaims.jp

富士通奨学金制度の運営



1985年、富士通は創立50周年を記念して、日本の文化・社会・経営手法を深く理解し、将来にわたって日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。累計受給者は499名に上っています（2016年4月1日現在）。

当初はJAITSで日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まりましたが、現在は日本以外のアジア太平洋地域18カ国のビジネスパーソンを対象に、富士通JAITSのGLIKプログラムに参加する機会を提供しています。

この奨学金には、毎回多数の応募がありますが、英語力、学業成績、業務経験などに加え、自国の発展に寄与したいという意志などを踏まえて奨学生を選定しています。富士通は、アジア太平洋諸国で事業展開する富士通グループ会社と連携して募集活動を共同で実施するなど、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、自国や自コミュニティへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献しています。

・ Fujitsu Scholarship（英文サイトのみ）

<http://www.fujitsu.com/scholarship/>



富士通奨学金受給者たち

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援



富士通は、公益財団法人「数学オリンピック財団」および特定非営利活動法人「情報オリンピック日本委員会」の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック（IMO）への日本代表選手の選抜、派遣を通じて数学的英才の発掘および伸長を図るとともに、国際的視野での数学教育発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。富士通は、同財団の設立にあたって、他2社・1個人とともに基本財産を拠出しました。また、IMOへの日本代表選手の選抜大会である日本数学オリンピック（JMO）や日本ジュニア数学オリンピック（JJMO）における成績優秀者への副賞提供などの支援を行っています。

一方、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理情報科学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック（IOI）への参加および協力事業を展開しています。富士通は賛助会員として、その運営を支援するとともに、IOIへの日本代表選手の選抜大会である日本情報オリンピック（JOI）における成績優秀者に副賞を提供しています。



第26回数学オリンピック表彰式

高専生を対象としたプログラミングコンテストを支援



富士通は、全国高等専門学校プログラミングコンテストを特別協賛企業として支援し、「富士通企業賞」を設け、受賞チームに富士通製パソコンを贈呈しています。

2015年度は PowerPoint を利用して手軽に劇の舞台演出が行える支援ツールを作成した鳥羽商船高等専門学校に富士通企業賞を贈りました。今後も若き ICT 技術者の育成を支援していきます。



第 26 回全国高等専門学校プログラミングコンテストにて「富士通企業賞」を受賞された鳥羽商船高等専門学校の皆さん

「富士通キッズプロジェクト：夢をかたちに」



「富士通キッズ：夢をかたちに」子ども向けサイトは以下をご参照ください。
<http://jp.fujitsu.com/about/kids/>

文化・協賛活動



富士通の文化・協賛活動は以下をご参照ください。
<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/index.html>

スポーツを通じた貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、富士通の積極的なイメージを体現する組織として、日々その技術の向上に努めています。

陸上競技部



富士通の陸上競技部は、「世界で戦える選手を育成」をスローガンに、1992年のバルセロナオリンピックから2012年のロンドンオリンピックまで6大会連続で日本代表選手を輩出しています。また、2008年には、JOCスポーツ賞「トップアスリートサポート賞」最優秀団体賞を受賞、2016年は「第1回実業団陸上Team of The Year」を受賞するなど、1990年の創部以来、常に日本陸上界をリードしてきました。所属するトップアスリートたちは全国各地で行われる陸上教室にも積極的に参加し、日本の陸上競技力の向上とスポーツの発展に寄与しています。

2015年は、世界陸上北京大会に4名の日本代表選手を輩出。ニューイヤーズには25年連続で出場。また、男子20km競歩において鈴木雄介選手が世界記録を樹立するなど、日本陸上界を牽引する存在として活躍しています。

・富士通陸上競技部

<http://sports.jp.fujitsu.com/trackfield/>



挑戦の支援



地域との共生



2015年10月に千葉県で開催された陸上教室の様子
©FUJITSU SPORTS

アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」



富士通のアメリカンフットボール部は、1985年に創部され、「アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に」をスローガンに、日本アメリカンフットボール界の開拓者となることを誓い「FRONTIERS (フロンティアーズ)」と命名されました。

社会人東日本選手権である「パールボウル」では、2003年の初優勝を含め、3度の優勝。2014年は、社会人日本一を決める「JAPAN X BOWL」で優勝を飾り、初出場の日本選手権「RICE BOWL」にも勝利し悲願の日本一を獲得。二連覇を目指した2015年シーズンは、惜しくも決勝で敗れたものの、名実ともにXリーグのトップチームとして活躍しています。

また地域貢献活動においては、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、2010年からは川崎市内の小学生を対象に安全に気軽に取り組めるフラッグフットボールを体育の授業で指導するなど普及活動に取り組んでいます。



挑戦の支援



地域との共生



2015年度に川崎市内の小学校で開催した「ふれあい教室」
©Nano Association

- ・アメリカンフットボール部「FRONTIERS（フロンティアーズ）」
<http://sports.jp.fujitsu.com/frontiers/>

女子バスケットボール部「レッドウェーブ」



富士通の女子バスケットボール部は、1985年の創部後、赤い波が強豪チームを脅かす存在となることを目指して「RedWave（レッドウェーブ）」と命名。2006年の第72回全日本総合バスケットボール選手権（皇后杯）で初優勝を飾ると、2008年まで3連覇を達成し、2007年度の第9回Wリーグ（WJBL 2007-08）では、悲願の初優勝を果たしました。2005年以降は11年連続でプレーオフに進出しているほか、2015-16年シーズンは2年連続ファイナル進出しWリーグ準優勝を果たすなど、Wリーグ屈指の強豪チームに成長しています。

社会貢献活動では、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、川崎市内の小学生を対象に体育の授業で実技指導を行う「ふれあい教室」を開催し、地域でのスポーツの振興とバスケットボール界の底辺拡大に努めています。この「ふれあい教室」は、2004年から11年間継続しており、2015年度は10回実施しました。

- ・女子バスケットボール部「RedWave（レッドウェーブ）」
<http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/>



2015年度に川崎市内の小学校で開催した「ふれあい教室」
©Nano Association

川崎フロンターレの活動を支援

富士通がオフィシャルスポンサーを務める川崎フロンターレは、1999年にJリーグに加盟。川崎市をホームタウンとしてプロサッカー事業の展開、地域の青少年の育成やスポーツ文化発展に貢献する活動に取り組んでいます。

また同チームは、2011年の東日本大震災直後から「Mind-1 ニッポンプロジェクト」を立ち上げ、被災地の中長期的な復興支援活動に継続的に取り組んでいます。また、2015年9月には、支援活動を行ってきた陸前高田市と「高田フロンターレスマイルシップ」という友好協定を結びました。支援からお互いに支えあい笑顔になれる関係を目指し、これからも活動していきます。

- ・川崎フロンターレ
<http://www.frontale.co.jp/>



2015年11月に実施した陸前高田サッカー教室
©KAWASAKI FRONTALE

協賛活動



富士通の文化・協賛活動は以下をご参照ください。

<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/index.html>

国際支援、災害支援

飲料販売を通じた熱帯雨林再生活動の支援



地域との共生

富士通グループでは、社会貢献・環境活動の取り組みの一環として、富士通のプライベートブランド飲料を社員向けに販売し、その売上の一部を「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」における熱帯雨林再生活動に充てています。同飲料は2009年の販売開始から2015年度末までの累計で約264万本を売り上げ、活動推進に寄与しています。

グループ社員による社会貢献活動



地域との共生

富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手、本、CDなどを回収し、それらの収益金をポリオワクチンや緑化の苗木、国際協力への寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に自主的に取り組んでいます。

南アジアでボランティア活動を展開する国際NGO「シャプラニール」（市民による海外協力の会）を支援する活動として、書籍・DVDを回収・売却する「ステナイ生活」を継続的に実施しています。

自然災害による被害への支援



地域との共生

富士通グループは、自然災害による被害の復興に役立てていただくため、義捐金寄付などの支援を行っています。2015年度は、9月に発生した関東地方・東北地方豪雨被害の被災地に向けた義捐金を国や地方自治体に寄付しました。

2015年度の活動事例

グローバルな青少年のリーダー育成支援

4年に1度開催される世界最大のスカウトの祭典「第23回世界スカウトジャンボリー」に、富士通は協賛するとともに、ワークショップ「Disaster Information Systems」を開催しました。

山口県・きらら浜に、世界約150カ国から3.3万人もの指導者や青少年のスカウトが集まり、2週間にわたるキャンプを通して世界中の仲間たちと体験を共にしました。

富士通は東日本大震災復興支援活動で得た経験と教訓をもとに、防災についてICTで学ぶ教材を開発しました。参加スカウトたちは、この教材を使って、カードやタブレットゲームに挑戦し、言葉の壁をこえて災害時における情報共有の重要性について楽しく学びました。

富士通は、今後も若者の挑戦を支援し続けていきます。



タブレットゲームに挑戦するスカウトたち

高齢者のICT活用を促進

日本では、2030年には65歳以上の高齢者人口が約3割にのぼることが予測されるなか、高齢者と若年層の情報格差が問題となっています。

このような課題認識のもと、富士通新潟システムズでは、高齢者のICT活用の促進を目指し、携帯電話Eメール講座とタブレット体験会を実施してきました。

本講座では、ボタンの位置を確認するなど初歩的な指導から行い、参加者のICTに関するイメージを「怖い」から徐々に「楽しい」に切り替え、ICTを身近に感じていただく内容となっています。さらに消費者センターとも連携し、セキュリティや詐欺などのトラブル、使用料金などに関する情報提供も行っています。

今後、行政や社会福祉協議会、大学、民間企業と連携して新たな支援サービスを創出し、ICTを活用した地域の支え合いのしくみづくりに貢献していきます。



高齢者向けICT講座の様子

子どもたちへのプログラミング指導「MegaDojo」



富士通ベルギーでは、毎年、「MegaDojo」というユニークなイベントに参加しています。本イベントはブリュッセルで開催され、1,000人以上の子どもたちが無料でプログラミング技術を学ぶことができます。この活動は、ボランティアによるグローバルなプロジェクトで、プログラマー不足やICTスキル修得の問題に対応するため、子どもたちのテクノロジーへの関心を高めることを目的としています。

今年はベルギーの27校の10歳から14歳までの子どもたちが参加しました。富士通は子どもたちを指導するとともに、50台のパソコンを寄付しました。さらに、今回、子どもたちは、ロボットや3Dプリンター技術などの多くの新技術についても学ぶことができました。



「MegaDojo」の様子

難民の受け入れ活動を支援



2015年、欧州には中東やアフリカなどから難民が殺到し、国際連合難民高等弁務官事務所（UNHCR）は2015年の年末、年初から欧州に到達した難民・移民の数は100万人を超えると発表しました。

この欧州難民危機において、富士通ドイツは、新たに入国した難民をサポートする数多くの取り組みを支援しました。フランクフルトでは、30箱の衣類を寄付し、さらにICT設備も寄付しました。また、オンライン教育のドイツ語コースで難民の語学学習をサポートし、難民が現地の社会やビジネスに上手に溶け込めるように支援などを行いました。



難民の受け入れ支援活動

科学技術分野での女性の躍進を目指す「Girls' Day」



科学技術分野においても、技術者不足への対応やイノベーションを促進するためには、さらなる女性の躍進が重要とされています。

富士通ドイツでは、政府主導の「Girls' Day」に参加しました。このイベントはドイツの企業が13～17歳の女子生徒を対象に、技術や自然科学に関する学習の場を設け、ICT、技能、技術、自然科学の教育を推進することが目的です。

富士通は昨年と同様にノートパソコンの技術に関するセッションを開催しました。主なユニットを実際に見せながら説明し、オペレーティング機能のデモンストレーションを行いました。さらに、生徒がノートパソコンを解体し、組み立てるチャンスも与えられ、ハイライトとなりました。生徒たちは、展示された製品に実際に手を触れながら深い興味を示しました。



「Girls' Day」の様子